

昭和八年十二月二十六日

福岡市外箱崎町
九州帝國大學工學部

土木教室

吉田弘道 殿

西田 精

拝啓 土木部長様御多幸の書 敬(圖)而 拜(具)仕(り)申(上)す たくお慰(見)申(上)す

一、計書の順序を地区別の計書書を通うより、区及れも消火水量が兼入(一)たきか如(一)之れを非常(火災)なる敷(知)者(あり) 今時小雨と消火栓の数を大体人口、区域収束物の種類 其他を標榜とある、(一)公衆を便用出来るか何れありとも、此れく 相者の水量の見込ませる(一)からぞ

二、計書書が三枚目の三表、第五区摘要の全(200)は(250)の誤り、

三、第三区 擴張東幹線の(一)の結果、誤りあるか、兩調さ(一) 若(一)之水(一)誤(一)異(一)ある(一)は(一)之(一)水(一)先(一)に(一)巨(一)部(一)に(一)誤(一)認(一)者(一)あ(一)ら(一)ず(一) 四、第三区 既設西幹線の水人口合計の誤りあるか、

西田 精 教授の書簡

書簡の日付が昭和8年12月26日からすると、第二期拡張工事への助言と思われる。第二期工事は雑賀町から北進して新大橋を越えて南北田町方面に送水する工事であった。松江市は、水道拡張の際にはいつも西田の助力を仰いだ(松江市誌)。